「りゅうま伝」は高野の分身がお客様のところへご挨拶に伺う。という氣持ちでお届けしています。

りゅうま伝

9号
2020年8月25日
高野竜馬

「自転車 九州一周の旅」

今年はコロナのおかげで夏休みが短く、息子の通う幼稚園はたった1週間しかなかったことに当の本人より凹んでいる夏、大好きオヤジの高野です。

さて皆様は「夏休み」と聞いて何を思い出されますか？

私は13歳(中学2年)の夏、8月6日から20日間かけて自転車で一人、九州一周したことを思い出します。なぜそんなことを思い立ったのかは憶えていません。当時、冒険家の植村直己が世間の注目を集めていて、それに感化された親父にそそのかされたのだと思います。

泊まるところは、ユースホステルという安宿を事前に予約し、それが無い所では人氣(ひとけ)のある駅のベンチ等に野宿しました。

私はJAFマップ片手に入念に練り上げた走行計画どおりに旅していきました。ある一日を除いて…。

それは8月20日のことでした。宮崎市から高千穂まで雨の中、移動する予定でしたが、山道が多くて思い通りに進めず、とうとう山あいの河川敷で果ててしまったのです。

河川敷には釣った鮎を食べるための小屋があって管理人と思(おぼ)しきおじさんが後片付けをしています。見渡す限り森と川で、人の住む集落も無いので、「この小屋で野宿させてもらえませんか？」とお願いすると「ウチに泊めてあげるよ」と言ってもらいました。

私の記憶では不愛想な感じの人だったので、正直、とても悩みましたが、真っ暗な自然の闇が怖くて、おじさんの家に行きました。

今となっては申し訳ないことを考えてしまったのですが、その晩幼い頃に読んでもらったアンデルセン童話を思い出し、おじさん夫婦に食べられるのではないかと号泣してしまいました。調子に乗っていても所詮13歳です(笑)。朝が来て命があることにホッとした、ことを覚えています(笑)。

実は今年、ある方に九州一周の困った事を聞かれるまで、この事を忘れていました。人は都合の良いことばかり覚えていて、トラブルにはフタをしているものですね。

でも、よくよく考えると、そこで不安に怯えて泣いたこと、だけど大したことはなかったことが、今の自分の見えない財産になっているのだと氣づかせてもらいました。不安は不安でしかありません。

また別の女性経営者には、「偉いのはアナタではなく、その旅に行かせたご両親ね。」と言われて、ドキッとしたこともあります。

さも自分だけでやり遂げたように聞こえたのかも知れません。その言葉は、私が親となって我が子が成長していくにつれ、より重くなりました。

私が好きに旅している間、両親はどんな思いだったろうか？一緒に冒険している氣分だったのではないか？私が帰、てきた時はさぞホッとしただろうなぁ。私は子ども達に同様の冒険をさせてあげられるだろうか？

盆休み父の墓参りでそんなことを考えた次第です。

たかの財形事務所
〒819-0374 福岡市西区千里 707-13
090-3407-2123
https://www.takanozaikei.com メール fp.takano@gmail.com

いつも応援してくれて有難うございます！ 感謝。